

【DP（ディプロマ・ポリシー）】  
 （令和6年度以降入学生）

医学科

・人材育成目標（社会における顕在・潜在ニーズ、卒業生が身につけるべき資質・能力）

医学部医学科では、学士課程において以下に掲げる資質・能力を身につけた者に学士（医学）を授与します。

医療人としての適切な判断力・行動力

1. 豊かな人間性、幅広い教養と高い倫理観に基づいて物事を判断し、行動することができる。
2. 生命の尊厳及び患者の権利と人格尊重の重要性を理解し、患者の立場に立って行動することができる。
3. 医療安全の重要性を理解し、また、医師の義務や規則を遵守して行動することができる。

・目標としての学修成果（学修成果として身につく具体的な資質・能力の項目）

1. 医療人に必要なコミュニケーション能力を身につけ、患者やその家族と良好な人間関係を築くことができる。
2. 多職種連携のチーム医療を理解し、相互を尊重し行動することができる。
3. 未知の課題に対して、自ら積極的に解決を図ろうとすることができる。
4. 生涯にわたり自己研鑽に励むことができる。
5. 基礎医学、社会医学及び臨床医学で修得した知識を統合し、医学・医療に関する事象を幅広い視野で考えることができる。
6. 修得した医学の知識をもとに、患者の病態から治療・ケアのアプローチまで概説することができる。
7. 基本的な知識、技能、態度を身につけ、患者を総合的に診察・診療することができる。
8. 研究心（リサーチマインド）を持って、真理を探究し、未知の分野を切り拓こうとすることができる。
9. 海外の医療や異文化を理解し、グローバルな視点で物事を判断し行動することができる。
10. 地域医療が抱える諸問題に対して積極的に取組もうとすることができる。

・DP と特に関わりが深い SDGs17 の目標（学士課程を通じた資質・能力の修得が、社会におけるSDGsのゴール達成とどのように関わるか）

SDG「3. すべての人に健康と福祉を」

医学部医学科の卒業生は、6年間の段階的な一貫教育を通じ、医師になるために必要な知識、技能、態度を身につけており、地域の医療と人類の福祉に貢献できる基盤を有しています。

## 看護学科

### ・人材育成目標（社会における顕在・潜在ニーズ，卒業生が身につけるべき資質・能力）

医学部看護学科では，学士課程において以下に掲げる資質・能力を身につけた者に学士（看護学）を授与します。

1. 豊かな人間性と高い倫理観を備えるとともに，広い視野で科学的な思考に基づいた看護実践ができる。
2. 社会の変化に柔軟に対応し，科学的な思考を基に，個人・集団・地域の健康課題を関係者及び関係機関と協働して解決できる。
3. 自己を省察・評価し，主体的に看護学を探究する姿勢を身につけることができる。

### ・目標としての学修成果（学修成果として身につく具体的な資質・能力の項目）

1. 豊かな人間性と高い倫理観を備え，人間，健康，社会・文化に対する深い理解と見識に基づいた全人的ケアリングを提供することができる。
2. 科学的探究心に基づき，論理的に問題を解決できる。
3. 高いモチベーションを持ち，主体的に学習に取り組む態度を身につけることができる。
4. 広く国際的視点に立ち，最新の科学的知見を活用できる。
5. ライフサイクル，健康レベルに着目し，全ての人々の健康問題を査定し，対象に適した援助を提供することができる。
6. 対象者の健康問題の解決のために，保健・医療・福祉の関連領域の専門職と協働できる。
7. 超高齢化，過疎化，医療の偏在化等の進展する地域固有の健康問題に対応した看護活動を展開できる。

### ・DP と特に関わりが深い SDGs17 の目標（学士課程を通じた資質・能力の修得が，社会における SDGs のゴール達成とどのように関わるか）

SDG「3. 全ての人に健康と福祉を」

学士(看護学)取得者は，豊かな人間性と高い倫理観を備え，ライフサイクル，健康レベルに着目し，全ての人々の健康問題を査定し，対象に適した援助を提供する看護実践能力を修得しており，保健・医療分野で活躍できる基盤を有しています。

---

## 【CP（カリキュラム・ポリシー）】

（令和6年度以降入学生）

## 医学科

## 1. 教育課程の編成方針

- (1) 1年次では、主として全学基礎教育を履修します。全学基礎教育は、現代社会が求める基礎的な資質・能力の成長を促すために、すべての学士課程に所属する学生が共通して学修する教育課程であり、「島大 STEAM 科目群」「ユニバーサル科目群」「地域創生科目群」「教養育成科目群」の4つの科目群に分かれます。医学部医学科においては、これらの科目群に設定されるほぼ全ての科目を必修としており、全学 CP が定める各科目群の目標への到達を促します。
- (2) 医学科では、SDGs の目標とその達成への理解を促すため、全学基礎教育の「SDGs 入門（2 単位）」を必修科目として学修します。また、「基礎医学系」、「臨床基礎医学系」、「社会医学系」及び「臨床医学系」に区分される専門教育科目の学修を通じて、SDGs の目標「3. すべての人に健康と福祉を」の達成に資する人材を育成します。さらに、全ての授業科目において、SDGs の 17 の目標との対応関係をシラバスに記載します。
- (3) 医学科では、ディプロマ・ポリシーを達成するため6年間の段階的な一貫教育を通じ、医の倫理やプロフェッショナリズム及び、医師になるために必要な知識、技能、態度を身につけます。
- (4) 医学科では、ディプロマ・ポリシーに含まれるコンピテンスを定め、それぞれ具体的な到達目標がコンピテンシーとして設定されています。その到達目標を達成できるようカリキュラムが構築されます。
- (5) 医学科では、中核となる必修科目だけでなく、選択科目が豊富に設定され、自主性を重視した授業構成を医学科全体として行うことで、学生の学習意欲を刺激します。
- (6) 基礎科学、基礎医学、臨床医学を統合した学習を目指した、領域ごとの垂直-水平的統合を推進します。
- (7) アクティブラーニングを積極的に導入し、生涯にわたって共に学ぶ姿勢を涵養します。

## 2. 教育課程における教育・学修方法に関する方針

### 2-1. 各学年次におけるカリキュラムの方針

- (1) 1年次には、「医療倫理・プロフェッショナリズム」、「行動科学」を含む教養育成科目のほか、基礎科目を履修し、豊かな教養を養うとともに、生命の尊厳や倫理観についての認識を深めます。また、医学部附属病院での早期体験実習を通じて、将来医師となるための動機付けを行います。「情報科学概論」や「数理・データサイエンス」にて、急速に発展する ICT (Information and Communication Technology) にいち早く対応できる知識と技能を身につけ

ます。また、「組織学」「生化学」「免疫学」といった専門教育科目も開始されます。

- (2) 2年次は、基礎医学系の「解剖学」「生化学」「生理学」「医科遺伝学」、臨床基礎医学系の「免疫学」「細菌学」など専門教育科目を履修し、臨床医学を修得し応用するための基本的な医学知識を修得します。
- (3) 3年次には、「薬理学」「病理学」「ウイルス学」「放射線基礎医学」といった臨床基礎医学系の科目に加え、「法医学」「医事法制」「環境保健医学」などの社会医学系の科目を修得します。また、学生自らが希望する講座で研究や臨床の基本を学ぶ「研究室配属」を実施します。この間、医学研究に対する理解を深め、研究に対する姿勢（科学的探究心・リサーチマインド）を身につけます。
- (4) 3年次から4年次にかけては、「医学チュートリアルコース」が開始されます。垂直-水平的統合の一環として、臓器別・系統別に17コースが設けられ、コースに関連する基礎医学、臨床基礎医学、社会医学を組み込んで、臨床医学への導入を学びます。また、自学自習の習慣や問題解決能力、主体性・リーダーシップ等の能力を身につけるために、PBL、TBL教育が行われます。
- (5) 4年次に、共用試験CBT及び医学系臨床実習前OSCE（Pre-CC OSCE）を実施します。これらに合格すると、スチューデント・ドクターの称号が与えられ臨床実習を行うことができます。
- (6) 4年次末から6年次にかけて、診療参加型臨床実習（クリニカル・クラークシップ）を72週間にわたり実施します。学生は指導医のもとで、医療チームの一員として責任と主体性を持って実際の診療に参加します。これにより、実践的な臨床能力及びコミュニケーション能力を身につけ、また、多職種連携、チーム医療や医療倫理・医療安全、患者医師関係など幅広く臨床医学の基本や態度を学びます。また、この間に、課題抽出能力や問題解決能力及び生涯にわたって自己学習・研鑽に励む能力を養います。
- (7) 臨床実習（72週）のうち、16週は総合診療・地域医療学、精神科神経科、産科婦人科、小児科の4つの診療科に関して4週連続の診療参加型臨床実習を行います。特に、総合診療実習のほとんどにおいて、島根県内の約20の地域医療機関の中から選択して、臨床実習を行います。それ以外の診療科は1週ずつローテートします。
- (8) 6年次には、内科系診療科3つ、外科系診療科3つの計6つの診療科（計24週間）を選択して、4週連続の診療参加型臨床実習を行います。また、4週間のフレキシブル実習として、県外や海外の医療機関での研修も可能としています。また、医学系臨床実習後OSCE（Post-CC OSCE）を実施します。

## 2-2. 6年間一貫したコース構築について

- (1) 1年次開講の地域医療学や、臨床実習内での総合診療・地域医療学では、地域医療への貢献についての動機付けを図ります。さらに、全学年の希望者を対象に、地域医療体験実習を実施し、県内の医療機関で地域医療を体験します。
- (2) 英語教育は1年次から6年次まで6年間一貫して実施し、医学英語の基礎から実践的な語学力向上を図ります。また、選択科目として、「アドバンスト・イングリッシュスキルコース」を設け、より高度な英語力の修得と異文化の理解を通じた国際的視野の涵養を図ります。海外の医療機関における実習に積極的に参加することで、国際性やグローバルな視点を身につけます。
- (3) また、学生が自主的に教員のもとで研究の基礎を学ぶ「医学研究の基礎」により、早期から研究について理解を深めるとともに、研究体験を通じて、科学的かつ理論的な思考力を身につけます。

## 3. 学修成果の評価の方針

医学部医学科では、以下の点について、アセスメントポリシーを定めます。

- ①定期試験等 ②公的試験 ③定期試験の受験資格 ④成績の評価 ⑤評価の基準
- ⑥アンプロフェッショナルな行動の評価 ⑦臨床実習の評価 ⑧シラバス
- ⑨追試験 ⑩再試験 ⑪成績評価の疑義 ⑫点検と改善

また、評価の基準を科目ごとに定め、ルーブリック等を用いて態度、知識、技能を含む評価を形成的、多面的に行います。

## 看護学科

### 1. 教育課程の編成方針

- (1) 1年次～2年次では、主として全学基礎教育を履修します。全学基礎教育は、現代社会が求める基礎的な資質・能力の成長を促すために、すべての学士課程に所属する学生が共通して学修する教育課程であり、「島大 STEAM 科目群」「ユニバーサル科目群」「地域創生科目群」「教養育成科目群」の4つの科目群に分かれており、全ての科目群において必修科目が設定されています。このほかに、選択科目として4つの科目群から幅広い分野の授業科目を選択履修し、全学CPが定める各科目群の目標への到達を促します。
- (2) 医学部看護学科では、SDGsの目標とその達成への理解を促すため、全学基礎教育の「SDGs

入門（2単位）」を必修科目として学修します。また、専門教育科目の「母性看護学概論（2単位）」や「小児看護学概論（2単位）」、「成人看護学概論（2単位）」、「老年看護学概論（2単位）」、「地域看護学活動論（2単位）」等での学修を通じて、ライフサイクル、健康レベルに着目し、全ての人々の健康問題を査定し、対象に適した援助を提供するための知識・態度の基盤を修得することで、SDGsの目標「3. 全ての人に健康と福祉を」の達成に資する人材を育成します。さらに、全ての授業科目において、SDGsの17の目標との対応関係をシラバスに記載します。

- (3) 多様で複雑な健康問題に対応できる人材、将来、地域の看護をリードでき得る人材を育成する必要から、いわゆる統合教育を基盤とし、看護師の国家試験受験資格に係る科目を必修としています。
- (4) 超高齢化、過疎化、医療の偏在化等の進展する地域固有の健康問題に対応した事業を施策化できる人材を育成するため、選択制で保健師の国家試験受験資格を得ることのできる課程を設けています。
- (5) 保健・医療と連携・協働できる養護教諭を育成するため、選択制で、養護教諭1種免許を取得できる課程を設けています。

## 2. 教育課程における教育・学修方法に関する方針

看護専門職に求められる基本的能力を育成するために、以下のような構造化された教育課程を編成しています。

- (1) 1年次では主として全学基礎教育を履修します。全学基礎教育は「島大 STEAM 科目群」「ユニバーサル科目群」「地域創生科目群」「教養育成科目群」から構成されます。また、それぞれの科目群に対応する教育目標として「現代社会の求める新たなリテラシーを身につける」「国際社会で必要とされる基礎的知識・技能と地球規模の視野を身につける」「山陰地方の地域の問題解決に資する能力・資質を身につける」「豊かな人生の基盤となる幅広い教養を自己の興味・関心に応じて身につける」の4つを掲げており、現代社会が求める基礎的な知識・能力の成長を促します。また、国際的視点の涵養のために、海外研修を自由科目として設定しています。
- (2) 1年次の前期に初年次教育プログラム「看護学入門セミナー」を設けています。専門教育科目を履修する準備として、レポートの書き方や文献検索方法など、学ぶ技術に関する力を身につける他、専門教育への橋渡しになるような基礎的知識・態度を養います。
- (3) 1年次から2年次にかけて、人体の形態と機能や疾病、人間の心理に関する専門基礎科目を履修し、看護を学ぶために必要な基礎知識を身につけます。

- (4) 看護実践能力を養うために臨地実習は各年次に段階的に組み込んでおり1年次の早期から、地域活動を通じて交流し、地域の人々が生活している環境やライフスタイル、価値観を捉える視点を養う「早期地域看護学実習」を行います。
- (5) 1年次から2年次にかけての専門科目では、看護学の基盤となる講義科目、看護を提供するための援助技術を学ぶ演習科目、さらに「基礎看護学実習」を履修し、看護の基本を身につけます。
- (6) 2年次から、多様な健康問題への対応を学ぶため、幅広い看護の専門領域の概論・援助論を履修します。
- (7) 3年次以降はこれまでの学修をふまえて、病院、保育所、訪問看護ステーション等で看護の専門領域の実習を行い、実践能力を高めます。さらに4年次には、「看護学総合実習」や「看護管理実習」を行い、看護実践能力の統合を図ります。
- (8) 看護専門職としての研究マインドの育成のため、4年次の1年をかけて「卒業研究」に取り組みます。看護学のエビデンスを生み出す研究のプロセスについて、自ら研究課題を定めてデータを収集・分析し、発表会を経て、論文として集録にまとめます。
- (9) 1年次には必修科目の中で医学科との合同授業を行い、チーム医療の主な担い手としての態度を養います。また附属病院と連携して、病院の看護師が講義や演習に講師・ファシリテーターとして参加することによって、医療現場における最新の技術を学びます。
- (10) 保健師課程、養護教諭課程の選択者には、それぞれ免許取得に必要なカリキュラムを別途設けています。

### 3. 学修成果の評価の方針

- (1) 授業の成績評価は「成績の評価に関する取扱要項」にしたがって評価を行います。評価方法については、評価の観点とその割合を各授業科目のシラバスに明示し、多面的評価を行います。
- (2) 看護学科には4年間にわたる学修の成果を記録する「看護学実習 Web」と呼ばれる独自の評価システムがあります。ここには看護技術、実習到達度、実践能力到達度等が、自己評価と教員評価によって数値化されて表示されます。「看護学実習 Web」は、自らの看護実践能力を分析し、以後の実習計画の参考とします。また、ポートフォリオとして活用することで自己教育力を育みます。
- (3) 成績評価について疑義があるときは、「成績の評価に関する取扱要項」や医学部で定められ

た手続きにしたがって、不服申し立てを行うことができます。

---

## 【AP（アドミッション・ポリシー）】 （令和7年度以降入学生）

### ■医学科

#### ●求める学生像

医学部医学科では、以下のような能力を身につけてきた学生を求めています。

#### 知識・技能

1. 高等学校で履修する英語、数学、理科、社会、国語、情報において、入学後の医学部の修学に支障がないレベルの知識を有している。

#### 思考力・判断力・表現力

2. 人のために尽くそうとする明確な意志を有している。
3. 地域医療を担う意欲と使命感を有している。
4. 生命及び人に対する尊厳と倫理観及び理論的な思考力を備えている。
5. 探究心が豊かであり、未知の分野に挑戦しようとする情熱を有している。
6. 異文化や自分と異なる考えを受け入れ、広い視野で物事を判断し思考できる。
7. 自分の意見や考えをわかりやすく言葉や文章で表現できる能力を有している。

#### 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

8. コミュニケーション能力に長けている。
9. 相手の気持ちを理解するとともに支持し、周囲の人々と協調性を持って行動できる。

#### ●入学者選抜の基本方針

##### 一般選抜（前期日程）

大学入学共通テストでは、英語、数学、理科、社会、国語、情報において、入学後の医学部の修学に支障がないレベルの基礎学力を有しているかを評価します。

個別学力試験では、数学、英語の筆記試験を課し、これらの科目の知識、思考力、判断力、表現力を評価し、さらに面接では、医療人として必要な豊かな人間性、幅広い教養と高い倫理観、コミュニケーション能力、主体的な行動力、問題を自ら発見し解決を図る能力、情報収集能力及びチームとして協働できる能力などを評価します。

なお、県内定着枠では、卒業後は島根大学医学部附属病院を含む島根県内の病院の臨床研修プログラムにより初期研修及び専門研修を受けるとともに、島根県の地域医療に貢献する意欲・使命感を面接によって評価します。

## 学校推薦型選抜Ⅱ

大学入学共通テストでは、英語、数学、理科、社会、国語、情報において、入学後の医学部の修学に支障がないレベルの基礎学力を有しているかを評価します。

小論文では、出題された文章等に対し、主として論述式により解答する問題を課し、知識、物事の判断、論理的思考、分析・考察、問題解決等の能力を評価します。

面接では、医療人として必要な豊かな人間性、幅広い教養と高い倫理観、コミュニケーション能力、主体的な行動力、問題を自ら発見し解決を図る能力、情報収集能力及びチームとして協働できる能力などを評価します。

## 地域枠学校推薦型選抜

出願前にへき地医療機関等で医療福祉体験活動を行い、適性評価を受けるとともに（※）、市町村長等による面接を受けます。この面接は、志願者が故郷の地域医療に貢献したいという強い意志を持っていることを確認するとともに、医師となるにふさわしい資質を備えているかを多面的に見極めます。

小論文では、物事の判断、論理的思考、分析・考察、問題解決等の能力を評価します。

面接では、医療人として必要な豊かな人間性、幅広い教養と高い倫理観、コミュニケーション能力、主体的な行動力、問題を自ら発見し解決を図る能力、情報収集能力及びチームとして協働できる能力とともに、志願者が故郷の地域医療に貢献したいという強い意志を評価します。

## 緊急医師確保対策枠学校推薦型選抜

出願前に県内医療機関等で医療体験活動を行い、適性評価を受けるとともに（※）、島根県担当者による面接を受けます。この面接は、志願者が島根県の地域医療に貢献したいという強い意志を持っていることを確認するとともに、医師となるにふさわしい資質を備えているかを多面的に見極めます。

小論文では、物事の判断、論理的思考、分析・考察、問題解決等の能力を評価します。

面接では、医療人として必要な豊かな人間性、幅広い教養と高い倫理観、コミュニケーション能力、主体的な行動力、問題を自ら発見し解決を図る能力、情報収集能力及びチームとして協働できる能力とともに、志願者が島根県の地域医療に貢献したいという強い意志を評価します。

●各選抜方法における求める力（評価する力）

区分		選抜方法	知識	思考力 判断力 表現力	主体性 多様性 協働性	地域医療に 対する意欲・ 使命感
一般選抜	前期日程	大学入学共通テスト	◎	○		
		個別学力試験	◎	○		
		面接		○	◎	◎
学校推薦型選抜Ⅱ		推薦書・調査書	★	★	★	★
		大学入学共通テスト	◎	○		
		小論文	○	◎		
		面接		○	◎	◎
地域枠 学校推薦型選抜 ・ 緊急医師確保対策枠 学校推薦型選抜		推薦書・調査書	★	★	★	★
		大学入学共通テスト	◎	○		
		小論文	○	◎		
		面接		○	◎	◎
		地域医療等に関する論文	★	★	★	★
	地域の医療機関における適性評価(※)	★	★	★	★	
	学外第三者*による面接	★	★	★	★	

★：参考とするもの

\*：市町村長等または県担当者

※不測の事態等が生じた場合は、医療福祉体験活動の実施方法等の変更を行う場合があります。その場合は、島根大学入試情報HP（<https://www.shimane-u.ac.jp/nyushi/>）でお知らせします。

■看護学科

●求める学生像

看護学科では、将来、地域社会の人々の命と生活を支える自律した看護専門職を志望する、次のような学生を求めます。

1. 大学で学ぶ上で必要な基礎的学力と主体的学習態度を身につけている人
2. 他者に関心を持ち、人間を尊重し、ささえ合い、ともに歩むことのできる人間性豊かな人
3. 知的探究心にあふれ、主体的かつ論理的に問題解決を図ろうとする人
4. 志を高く持ち、夢の実現に向けて弛まぬ努力のできる人
5. 保健・医療に関心があり、将来看護に貢献したいと考えている人

●入学者選抜の基本方針

一般選抜（前期日程）

【基礎知識，思考力・表現力，看護専門職に対する意志・意欲，協調・協働性を重視】

大学入学共通テストを課し、各教科の基礎的な知識を幅広く習得しているかを評価します。小論文では、文章等読解力、思考力、文章表現力を評価します。また「面接」では、志望理由や看護専門職に対する意志・意欲、協調・協働性について評価します。

一般選抜（後期日程）

【基礎知識と看護専門職に対する意志・意欲，協調・協働性を重視】

大学入学共通テストを課し、各教科の基礎的な知識を幅広く習得しているかを評価します。「面

接」では、志望理由や看護専門職に対する意志・意欲、協調・協働性について評価します。

### 専門高校・総合学科卒業生選抜

#### 【基礎知識、思考力・表現力、看護専門職に対する意志・意欲、協調・協働性を重視】

大学入学共通テストを課し、各教科の基礎的な知識を幅広く習得しているかを評価します。小論文では、文章等読解力、思考力、文章表現力を評価します。また「面接」では、志望理由や看護専門職に対する意志・意欲、協調・協働性について評価します。

### 学校推薦型選抜Ⅱ

#### ・一般枠

#### 【看護専門職に対する意志・意欲、協調・協働性、思考力・表現力、基礎知識、地域保健・医療への志向を重視】

「小論文」によって、文章等読解力、思考力、文章表現力を評価します。また「面接」では、志望理由や動機の明確さ、看護専門職に対する意志・意欲、協調・協働性、地域保健・医療への志向について評価します。大学入学共通テストを課し、各教科の基礎的な知識を幅広く習得しているかを評価します。

#### ・地域枠

#### 【島根県の保健・医療への貢献と看護専門職への意志・意欲、協調・協働性、思考力・表現力、基礎知識を重視】

「小論文」によって、文章等読解力、思考力、文章表現力を評価します。また「面接」では、志望理由や看護専門職に対する意志・意欲、協調・協働性に加え、島根県の保健・医療への貢献に対する意欲の強さを評価します。

大学入学共通テストを課し、各教科の基礎的な知識を幅広く習得しているかを評価します。

#### ●各選抜方法における求める力（評価する力）

区分		選抜方法	知識	文章等読解力 思考力 表現力	意志 意欲	協調 協働性	地域への 志向
一般選抜	前期日程	大学入学共通テスト	◎	○			
		小論文		◎			
		面接			◎	◎	
専門高校・総合学科 卒業生選抜		大学入学共通テスト	◎	○			
		小論文		◎			
		面接			◎	◎	
一般選抜	後期日程	大学入学共通テスト	◎	○			
		面接			◎	◎	
学校推薦 型選抜Ⅱ	一般枠	大学入学共通テスト	○	○			
		小論文		◎			
		面接			◎	◎	○
	地域枠	大学入学共通テスト	○	○			
		小論文		◎			
		面接			◎	◎	◎